祝！33年ぶり両クラス全日本インカレ出場！

2017
all japan
intercollegiate
sailing championship

# 両クラス全日本インカレ出場によせて

淡青セーリングクラブ会長

## 田中一光

　現役の皆さん、全日本インカレ出場おめでとうございます。これまでの皆さんの日ごろの努力が実り、全日本出場への切符と獲得したことに敬意を表します。ここからが「強い東大ヨット部復活」のスタートです。これまで海の上や陸上で受けてきた教えを一つ一つ思いだしながら、若狭の海で精一杯戦い、より上を目指してきてください。過去には関東インカレの予選をぎりぎりで通過した学校が、本番の全日本で優勝した例もあります。皆さんにも決して出来ないことではありません。4年生にとってはこれが学生時代の最後の大きなレースになることでしょう。思い残すことなく4年間の集大成を見せてください。3年生以下の皆さんにとっては、この大会が来年度以降の活動の出発点です。全日本のレースに参加することは大変貴重な経験になりますので、この大会で各自がしっかりと自分たちの足跡を残し、これからのヨット部活動の糧としてください。そして、「強い東大ヨット部」を引き継いで行ってください。皆さんのご活躍を期待しています。

東京大学運動会ヨット部部長

## 松下淳一

　このたび、東大ヨット部は、470とスナイプの両クラスで全日本インカレへの出場を決めることができた。両クラスインカレ出場は30年以上ぶりとのことである。数年前に部員の減少によりヨット部の存続が危ぶまれた頃を知っている身としては、隔世の感であり、現役部員の頑張りに対して心から賛辞を送りたい。教育と研究を責務とする大学の中に運動部があるのはなぜか。次世代のリーダーシップを担う若者の育成のためには、スポーツが有用であることが長年の人類の知恵であるからであろう。努力をしたにもかかわらず結果が出なかったという経験も重要である。しかし今回は、高いハードルを越えて全日本への切符を得ることができた。この達成感、高揚感も今後の人生にとってかけがえの体験になるであろう。

　現役部員が全日本の舞台で、持てる力をすべて出してレースをすることを心から祈念する次第である。

東京大学運動会ヨット部監督

## 霜山元

　２００８年以来の全日本インカレ、そして３３年ぶりの両クラスでの出場という快挙に、否が応でも目がいってしまいがちですが、自分たちで目的と目標を考えて努力を重ね、チームとして自分たちを表現したことが何よりも素晴らしいと思います。目指していた舞台、初めての舞台での経験を目一杯楽しんでください。また、その経験から多くのことを感じとり、次の成長に繋げていただけたらと思います。

東京大学運動会ヨット部コーチ

## 小松一憲

　全員でつかんだインカレ出場のチャンスであることを乗艇する学生は肝に銘じ、最終レースのフィニッシュまでベストを尽くしてください。1レース1レース上手になる、一日一日進歩する、そして最後に一番良いレースをすると自らに言い聞かせレースに臨んでください。乗艇する下級生は勿論のことサポートする学生もその姿を見ています。昨年、僅かな差で出場を逃し、肩を震わせて泣いていた先輩達の悔しさを目に焼き付けて頑張った君達のように。私はその直向きさがこれからの東大ヨット部を強くすると信じています。皆の努力を温かく見守ってくれているご家族やOBの皆さんに清々しい報告ができる若狭のインカレにして欲しいと願っています。

東京大学運動会ヨット部主将

## 角出賢司

　平素よりお世話になっております。ディンギー班主将を務めます角出賢司です。この度470・スナイプの両クラスでの全日本インカレ出場が叶いました。LBの方々の度重なる御支援・御尽力のおかげでここまで来ることができました。この場を借りて感謝申し上げます。

　新入生勧誘にて多くの部員獲得に成功し、現在ヨット部は全体で45人の部員を抱える非常に大きな組織になりました。

　また8月の全日本個人選手権にスナイプ級の菅原（4年）・浅川（3年）ペアが出場したことに引き続き、9月には全日本女子選手権に470級の小野（2年）・水石（3年）ペアならびに土倉（1年）・鈴木（1年）ペアが出場するなど多くの成果を上げることができました。

　全日本団体戦においてもチームとして真摯にレースに取り組み、結果を追求していくことで、来年以降も継続する「強い東大ヨット部」の一歩となれば幸いです。

今後とも何卒宜しくお願い致します。

東京大学運動会ヨット部副将

## 菅原雅史

　平素よりお世話になっております。ディンギー班副将・スナイプ級リーダーを務めております菅原雅史です。

今回、両クラスで全日本インカレ出場を遂げることができたことを非常に嬉しく思います。

　特にスナイプ級は、自分が入部したときに久しぶりに復活し、ノウハウも一度途切れてしまった状態からはじまっており、今から振り返っても、ここまで来れたことが信じられない気持ちで一杯です。これは、ここ3年間で31308と31418の2艇の新艇が来たことや小松コーチの招聘などに代表されるLBの皆さまのご支援、また、あと一歩力及ばず引退していった先輩方のご指導や試行錯誤がなければ成し遂げることは出来ませんでした。そのことを忘れないようにしながらも、全日本インカレではのびのびと前を走ることができるよう、そしてあわよくば平成初期以来の入賞ができるよう、福井の海でも頑張ってきたいと思います。

# 近年の軌跡と謝辞

今年度、東大ヨット部は 33 年振りの両クラスでの全日本インカレ出場を成し遂げました。ここには現役だけで至れるものでは断じてなく、監督をはじめとする LB の皆さま、そして LB 会のご支援あってこそのインカレ出場だと現役一同実感しております。
最近の東大ヨット部の道のりを振り返ると、コーチ招聘・新しいモーターボート・ディンギーの新艇・ニューセール等、様々なご支援を頂いております。毎年の LB 会からの現役補助だけでなく、特別にそういったものの資金集めにご尽力いただいた TOP 会の方々や、多額の寄付をくださった TKS 基金の皆さま、そして常日頃から東大ヨット部を応援していただいている LB の皆さまには感謝してもしきれません。 本当にありがとうございました。今後とも “強い” 東大ヨット部が “さらに” 強くなっていけるよう努力して参ります。
このページではそのような皆様のご支援とともに、
歩んできた過去の戦績を振り返って
いこうと思います。

スナイプ級 31308 納艇

レスキューボート疾風 II 納艇

470 級 4579 納艇

スナイプ級 31418 納艇

## 2017 秋インカレ
## 470 級決勝 8 位
## スナイプ級決勝 7 位

2017 年、全日本学連規約が見直され、関東では 8 枠が全日本出場枠となる。スナイプ級は昨年のレギュラーがほとんど残ったためあまり戦力ダウンせず、東北大戦においては 10 数年ぶりにスナイプ級優勝、春インカレでも 7 位という成績を残し、新艇 31418 も納艇され、全日本出場にむけて満を持した状態となる。一方の 470 級は昨年のレギュラーがほとんど抜け苦しい代となることも考えられたが、春インカレは 9 位と持ちこたえ、夏合宿の厳しい練習を経て成長、秋インカレでは 470 は 9 年振り、スナイプは 15 年振り、そして両級同時では 33 年振りの全日本インカレ出場を成し遂げた。

全日本インカレ ( 福井 )
470 級　？位
スナイプ級　？位

## 2016 秋インカレ
## 470 級決勝 8 位
## スナイプ級決勝 8 位

2016 年は、TKS 基金により新モーターボート疾風が進水、また、東大悲願のコーチとなる小松コーチの招聘も叶い、470 級の新艇 4579 が納艇されるなど、全日本インカレ出場に向けた現役・LB 一体の体制が加速する。特に小松コーチ招聘の効果は絶大で、470・スナイプともに予選出場校の中では頭一つ抜け出し全日本出場枠最後の 7 枠目を争えるまでになったが後一歩及ばず、特に 470 は 7 位の千葉大と 9 点差という悔しい結果となってしまった。

## 2015 秋インカレ
## 470 級決勝 12 位
## スナイプ級決勝 14 位

2015 年は、全日本インカレが江の島で開催されることになり、関東からの出場枠が 1 つ増えて 8 枠であった。秋インカレではスナイプ級は復活 2 年目にして決勝進出を決めたが、決勝においては 470・スナイプとも強豪校との差が大きく、敗退となった。

小松コーチ招聘
2015 年の 12 月末から指導を開始。
翌 2016 年から本格的な指導が始まる。練習方法、技術的な革新はもちろん、心構えまで大きな影響を与え、一年にも満たない指導で東大チームは予選出場校に確かな差をつけるに至った。詳しい内容は p.13 の企画対談に掲載。

## 2014 秋インカレ
## 470 級決勝 11 位
## スナイプ級予選敗退

2014 年は、現 4 年生が入部。 1 つ上の代と合わせて部員が大幅に増えたことを受け、スナイプ級が復活する。この年の秋インカレはスナイプ級は予選敗退 (12 位 )、470 は決勝 11 位となり全日本インカレには手が届かなかった。

# 470 TEAM

## 僅差を制する！全員の粘りで勝ち取った。

### DAY1 2R　83-62 計 145 点 9 位

朝ハーバーに到着すると予報通りの強風が吹いており、風落ち待ちとなる。13 時 30 分頃に D 旗があがり、第 1R が行われる運びとなった。 第 1R は苦手の強風の中で 22 位 -24 位 -28 位とスコアをまとめた。第 2R は少々風が落ち、軽風を得意とする西坂・水石艇が 6 位でフィニッシュ、失格艇があったため 3 艇の得点は 5-28-29 となり、2R 合計で 140 点と、全日本出場枠である 8 位以内のターゲットスコア 1R70 点以内をぎりぎりながら達成、まずまずの滑り出しを見せたかに思えた。しかし今回のインカレに備えて新品を購入した無線機の初期不良により PTP がついてしまい、また、競争相手となる明治大・千葉大が予想より前を走り、7 位明治と 43 点差、8 位千葉と 26 点差の 9 位と苦しい状況となる。

### DAY2 5R　83-62-65-31-79-53-81 計 454 点 8 位

風がすぐに落ちてしまう予報でありレースが出来るのかという不安を抱えながら艤装し出艇となるが、意外と風は落ちず、北風が残り続けて 5 レースを消化することとなる。
エース艇西坂・水石ペアは昨日から引き続き好調を維持するが、残る 2 艇は波があり、良いレースも悪いレースもあり、なかなか明治千葉に追いつくことができない。しかし、3 艇 BFD をつけた予選の反省を生かし、英語を付けないことだけは徹底しており、レース後の審問で千葉大が DSQ をつけた結果、8 位に浮上、7 位の明治大とは 48 点差、9 位の千葉大と 21 点差となる。

### DAY3 2R　83-62-65-31-79-53-81-63-61 計 578 点 8 位

3 日目の第 1R は 16-19-28 の 63 点とまとめ、このレースで明治大が 99 点と崩したために、この時点で 7 位明治大とは 12 点差、9 位千葉大とは 16 点差と、再び 3 校の争いとなる。第 2R、これが最終レースとなるのだが、千葉大が 5-8-16 と最高のレースを見せ、東大を逆転、絶体絶命かに思われた。しかし一方で明治大も 3 艇とも下位を走っており、明治大に 13 点差を付けて逆転するしかない状況となる。最終下マークまで東大は明治大に負けていたが、フィニッシュへの流し込みレグで西坂・水石艇と塚本・中田艇が上しあいを避けてベアコースを選択、これが功を奏し、それぞれ 4 艇、3 艇を抜いてフィニッシュ、この中に明治が含まれていたため見事明治大を逆転、全日本出場を決めた。

**4579**
skipper　西坂惇之
crew　水石さおり / 斉藤太朗

470 愛の強さ NO.1,2 の西坂と水石が組んだペア。秋インカレではチームで 1 番の成績を残した。ここ最近の東大ヨット部の中では最も良い成長曲線を描いている。唯一の欠点は、レースで前を走ると饒舌になり他の部員をイラっとさせることがあること。

**4357**
skipper　塚本将史
crew　中田祐輔

逗子開成高校主将まで務めた期待の 2 年生塚本と 1 年生からインカレに出ている経験豊富な中田が組んだ艇。秋インの最終レースでこのペアが踏ん張って最後に前の船を抜いたからこそ東大 470 の全日本出場がある。

**4452**
skipper　小野万優子
crew　角出賢司

主将が 2 年生スキッパーを引っ張っている。派手なレースはしないものの、叩かず安定しているとの定評がある。特にリーチングのスピードが速く、小野をして「リーチングレグは私の庭」とのこと。

# SNIPE TEAM

## 上級生率いる安定したレース運び。

### DAY1 1R　計 91 点　9 位

470 の出艇するタイミングではスナイプはまだ走れる風ではないと判断され、風がかなり落ちてからの出艇となる。しかし、出艇直後に 30785 のセンターボードが下がらないという今まで起きたことのないトラブルに見舞われ、師田・江村艇はハーバーに一時帰着、船を予備艇に交換することになる。結局師田・江村艇がレース海面に戻ってきたのは、一度目のスタートがゼネリコとなった後であった。3 艇とも平常心ではいられなかったのか、第 1R の 1 上マークは 26-39-40 であり、フィニッシュも 16-29-37 と崩し、PTP もついてまさかの 9 位スタートとなってしまう。

### DAY2 5R　91-55-61-72-36-51 計 366 点　7 位

2 日目はスナイプ級も 470 級同様 5R を消化した。2 日目の第 1 レースで菅原・多賀谷艇が会心の 2 位フィニッシュを決め、3 艇でも 2-23-30 の 55 点とまとめて成蹊大を抜いて 8 位に浮上する。菅原・多賀谷艇はその後も 4-9-5-9 とオールシングルでまとめ、師田・江村艇も 7 位フィニッシュ、山本・浅川艇も 13 位フィニッシュするなど各艇見せ場を作り、2 日目終了時点で 5 位明治大に 36 点、6 位明海大に 13 点差で、8 位とは 75 点差の 7 位と、全日本インカレ出場はほぼ確定、入賞を狙える位置につける結果となった。

### DAY3 2R　91-55-61-72-36-51-69-64 計 499 点　7 位

絶対に入賞する、という意気込みで臨んだ 3 日目であったが、第 1 レースのスタートで菅原・多賀谷艇がケースに巻き込まれるなどの不運もあり、いまいちピリッとしない。山本・浅川艇が 11-8 と気を吐いたが、第 1 レース 11-23-35 の 69 点、最終レースとなった第 2 レースは 8-22-39 の 64 点と叩いてしまった。結果として、5 位明海大とは 39 点差、6 位明治大とは 37 点差の 7 位で秋インカレを終えたが、余裕を持って全日本インカレ出場を決めることが出来た。

31308
skipper 山本圭祐
crew 浅川雄基

全日本個戦で菅原を 14 位に導いた浅川をクルーとして搭載したことにより上位を走ることを期待されたペア。決勝でははじめ調子が上がらなかったが、尻上がりに順位をあげていった。ただしスキッパーのメンタルに難あり。ブームにはそれを克服するため「俺が最強！！」と書いてある。

31418
skipper 菅原雅史
crew 多賀谷光

全日本個戦後にクルーの浅川と多賀谷を入れ替えて組んだペア。全個の勢いそのままに決勝でもシングルを連発してチームを引っ張った。クルーの多賀谷はこの夏を通じて部内で最も成長した男となり来年はエースクルーとなることが期待されている。

30785
skipper 師田侑一郎
crew 江村大樹

チーム唯一の 4 年同士のペア。はっきり言って、はまってしまえばこのペアが一番速い。決勝ではいまいち順位があがらず苦しんだが、全日本インカレで雪辱を果たすと決めている（らしい）。スナイプチームで他の 2 艇が辻堂製の船なのに対して 30785 はオクムラ製の船という個性を持つ。

# 部員紹介

①名前②出身高校③所属学科④ポジション⑤部内役職

①江村大樹
②広島学院高
③４年工学部物理工学科
④スナイプクルー
⑤レスキュー

①岡田一輝
②聖光学院高
③４年農学部国際開発農学専修
④クルーザー
⑤クルーザー主将

①菅原雅史
②開成高
③４年法学部第二類
④スナイプスキッパー
⑤副将・学連

①角出賢司
②麻布高
③４年工学部システム創成学科
④470 クルー
⑤主将

①中尾太一
②麻布高
③４年法学部第二類
④マネージャー
⑤常務

①中田祐輔
②浅野高
③４年工学部社会基盤学科
④470 クルー
⑤トレーニング

①師田侑一郎
②麻布高
③４年工学部建築学科
④スナイプスキッパー
⑤主務

①山本圭祐
②栄東高
③４年工学部物理工学科
④スナイプスキッパー
⑤コーチ連絡

①筒井友里恵
②聖心女子学院高
③４年聖心大文学部教育学科
④マネージャー

①中島範子
②宮崎西高
③４年東京家政大栄養学科
④マネージャー

①浅川雄基
②九段中等教育学校
③３年工学部建築学科
④スナイプクルー
⑤次期主将

①金澤亮磨
②安積高
③３年工学部建築学科
④スナイプクルー
⑤新歓

①工藤康平
②修猷館高
③３年教養学部教養学科
④クルーザー

①高山元哲
②福岡高
③３年経済学部経済学科
④スナイプスキッパー
⑤工具

①田原建人
②明治大学付属中野高
③３年工学部電気電子工学科
④クルーザー

①西坂惇之
②渋谷教育学園渋谷高
③３年農学部環境資源科学課程
④470 スキッパー
⑤会計

①水石さおり
②筑波大学附属高
③３年農学部環境資源科学課程
④470 クルー
⑤学連

①磯野洋佑
②岡崎高
③２年教養学部理科一類
④クルーザー

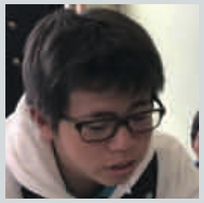
①小野万優子
②西南学院高
③２年教養学部文科三類
④470 スキッパー
⑤ SNS

①鈴木敦己
②安積高
③２年教養学部理科一類
④スナイプクルー

①多賀谷光
②栄東高
③２年教養学部理科二類
④スナイプクルー
⑤エール

①塚本将史
②逗子開成高
③２年教養学部理科二類
④470 スキッパー
⑤東北大戦

①塚田美駒
②今治西高
③２年聖心大文学部
④マネージャー



①阿部佑真
②東海高
③１年教養学部理科一類
④スナイプクルー

①甘粕隆志
②清真学園高
③１年教養学部理科一類
④クルーザー

①天木悠太
②筑波大学付属駒場高
③１年教養学部文科一類
④470 クルー

①大橋徹也
②開成高
③１年教養学部理科一類
④470 クルー

①春日健志
②海城高
③１年教養学部文科二類
④クルーザー

①齋藤道
②日比谷高
③１年教養学部文科三類
④クルーザー

①斉藤太朗
②逗子開成高
③１年教養学部理科一類
④470 クルー

# 部員紹介

①名前②出身高校③所属学科④ポジション⑤部内役職

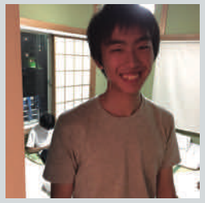
①鈴木麗
②渋谷教育学園渋谷高
③１年教養学部文科一類
④470 クルー

①土倉文子
②膳所高
③１年教養学部理科一類
④470 スキッパー

①戸沢真矢
②桐蔭学園中等教育学校
③１年教養学部理科二類
④470 クルー
⑤学連

①永田裕之
②麻布高
③１年教養学部理科一類
④スナイプクルー

①野村大善
②北嶺高
③１年教養学部理科一類
④スナイプクルー



①松前亮平
②浅野高
③１年教養学部理科一類
④470 クルー

①美間亮太
②灘高
③１年教養学部理科一類
④スナイプクルー

①吉武宗浩
②修猷館高
③１年教養学部理科一類
④スナイプスキッパー

①青柳佳保里
②関東学院高
③１年聖心大文学部
④マネージャー

①坂上雪乃
②北鎌倉女子学園高
③１年聖心大文学部
④マネージャー

①白石あり
②金城学院高
③１年聖心大文学部
④マネージャー

①多賀谷早
②本庄東高
③東京聖栄大管理栄養士学科
④マネージャー

①丹羽美森
②聖霊高
③１年聖心大文学部
④マネージャー

①濱田眞珠
②鹿児島純心女子高
③１年聖心大文学部
④マネージャー

①松島優季
②聖霊高
③１年聖心大文学部
④マネージャー



# 企画対談「小松コーチが来て変わったこと」

**参加者…角出、菅原、師田、水石、高山、多賀谷**
**小松コーチが来てから強くなった東大ヨット部。それまでとどう変わって強くなっていったのかを対談形式で挙げてみました。**

菅原：それでは始めましょうか。
師田：一昨年の 12 月に初めて来たんだよね。
菅原：そう。12/26 位に一回来て、早稲田とコース練したんだけど、スナイプは意外とついていけた気がしたんだよね、初日だけは。ただそれは最初の日だけで次の練習からは平川さん（昨年の早稲田の主将）とか永松くん（今年の全個覇者）に周回差つけられまくる日々が始まったんだよ…。
高山：そんな状態だった東大は小松さんが来てからどんな風に変わったんでしたっけ？
菅原：まず生活態度から入ったよね。ミーティング終わったあとに「したー」って挨拶していたのを「ありがとうございました！」に変えたりとか、合宿所のサンダルをきれいに並べるとか。
師田：そういえばその注意をされた直後のミーティングで誰かが大きな声で「したー」って挨拶したなんて事件もあったね（笑）
菅原：あれは信じられなかった。相当身を張ったギャグかと思ったもん。
角出：それ以外にもセーリング中にキョロキョロしすぎてるとこを注意されたりして。
師田：動画見たら、本当に上見たり下見たり振り返ったり、とにかくキョロキョロしてたもんね。それだけ前の東大はセーリングに集中できていなかったと。
菅原：で、まあ練習も変わりましたよね。
師田：昔はサークリングとショートラウンディングをやり続けていたけれど、基本的にすべてコース練習形式の練習に変わった。
水石：コース練習にはヨットのすべての要素が含まれているからってことらしいですよね。特にヨットにおいて最重要なスタートの練習も出来るし、競争要素が入ると集中度が増すという。
菅原：競い合う緊張みたいなのがすごく大事。
角出：そう、着艇もハーバーまで競争、スタートして上マーク回ってハーバーまで競争、とか。帰りはどうしても力が抜けがちになるんだけどそれが減った。
菅原：あとはコースの長さですよね、最初はびっくりした。ベーシックな動作練習やるぞって言われたのに、それまでの練習の上下マークの距離の 5 倍くらいの長さがあるんだもん。
師田：で、それに加えて四角にマークを打ってタイト、ブロード両方のリーチングの練習もするという。
高山：練習海面に向かうまでも今までは走るだけだったのがタック 5 回して 720 度回るというのをやったおかげで練習の効率あがりましたよね。
菅原：冬合宿の 1 週間でタック 1000 回やった週とかあったんだっけ？途中から数えられなくなったけど相当な数をやってるんだろうなおそらく。
菅原：曳航とかに関しても変わった。例えば曳航中にバングひかなくなったよね。
師田：セールに変な負荷掛けちゃダメだってね。
菅原：曳航自体も速くなったよね。
角出：まずロープをさばいて、こぶしをつくらないように準備するところから教わって。
水石：曳航に対する心のハードルが下がった気もします。すぐ曳航って選択肢が出てくるようになりました。
角出、菅原：たしかにたしかに。
水石：ほんと練習をギリギリまでやって曳航して帰るとか。
菅原：レースの日とかも、葉山の北風だったらランニング走ってたもん 3,4 メートルでも。で、海面着いたらすぐオレンジ旗上がるとか。それがなくなって本当に良かった。
師田：レスキューが止まらずに進みながらどんどん船が繋がれてだだだって進んでいくのかっこいいよね。
一同：うん。
菅原：あと、紐と紐を結ぶようになった。昔は全てのロープを直接マストに結んでたけど今はマストに負荷かけないために紐同士を結んでる。
角出：あとなんだろうな、最近やってないけどさ、出着艇でスキッパークルー交代するとか…
師田：あったね。クルーもスキッパーを体験することでいいクルーになるっていう。
水石：でも私、ある先輩に水石スキッパー無理だなって言われました（笑）。
師田：辛いエピソード（笑）。
菅原：それから重要なのは、リコールしない意識とかですかねぇ。
高山：文字をつけないのがいかに大事か今回のインカレでも実感したわけですが。
菅原：広場にポールを持ってラインを見るとかもやったね。まあ結局あれはスナイプチームのトレーニングにとりいれて、それ以来誰も試合でリコールしなくなったから本当に有効だった。
水石：あと、大きな変化は、昼着しなくなったこともありますね。
一同：あーーー
師田：それで練習時間がめちゃくちゃ長くなった。
菅原：そうだね。
角出：マリーナに怒られるくらい、限界まで練習して。
菅原：もはや昼着しないのがデフォルトになったもんな。
角出：怖いよね、慣れって。最初は辛かったけど今は何も辛くない。
師田：着艇って結構疲れるしねそもそも。
菅原：そうなんですよね。普通に非効率。
師田：特に八景島、練習海面遠すぎて。
菅原：普通に慣れてきたし冬もやればいいんじゃないかって感じだよね（注：真冬の 2 月はさすがに着艇していました）
高山：いやいやいや。そこは考えさせてください（笑）。
師田：練習時間が延びるシリーズだとレース後も練習するようになった。レース後はあまり使わないいいセールを使っているからちゃんと練習するいい機会。
菅原：というか（一緒に練習している）早稲田が練習するのに俺らだけ着艇とか出来ない（笑）。
角出：今まで出ていなかったけど、早稲田大学と練習を一緒にするようになったことも変わったことの 1 つだよね。
師田：すごく大事だよね、早稲田いるの。
菅原：早稲田と東大じゃ何から何まで違って、はじめは早稲田は強風で何でメイン出さずに済むんだろうみたいなこと多かった。
師田：たしかに、バングシーティングの時代からだいぶ変わった。
菅原：お手本が近くにいたのは本当に大きい。分からないことはすぐ聞けばいいし、あっちも詳しく教えてくれるし。
高山：早稲田の人とかともたまに乗り替わって一緒に乗れたりしますしそういうのも大きかったですね。
菅原：ハイクアウトとかもそうだね。横ですごいハイクアウトしていたのが自分たちも段々するようになっていったというか。
師田：ハイクアウトは確かに、ハイクアウトの概念が変わった。以前に比べてめちゃめちゃ出るようになった。トラッピーズも伸びるようになったね、多分。
角出：やっぱあとあれじゃない。コース練でも本部船とアウターで両方モーターボートにしていて、ほかの大学にはできない練習ができた。
高山：マークとボートだとデッドラインが変わるし、プレッシャーも違いますし。
師田：うん。それはでかいな。あと、打たれるコースが的確で的確で。
菅原：そうだね。本当に練習運営がすごい。
師田：運営がすごいなめらかだよね。
菅原：打ち替えの無駄な時間がとかがない。
師田：打ち替え中も何分に予告やりますって言ってくれるから効率もいいし、小松さんがいない時にも言うようになったし。
角出：しかも小松さんと早稲田がコース練習を主管してくれるからインカレ前とかシード校が混ざってきて本番さながらの上位 8 校によるコース練とかも出来るようになったよね。
菅原：そういうのがあるからこそ、（自分たちのターゲットの）法政とか明治とかに対して自分たちの立ち位置が分かったりしたし、スピードやコースの良し悪しとかもわかるようになって成長出来るようになった。
菅原：あとは小松さんの名言というか言葉も色々影響大きいよね。「本番は稽古のごとく稽古は本番のごとく」ってやつとか。
高山：僕もすごい好きです、稽古は試合のように、試合は稽古のように。
師田：名言シリーズ、俺らの心に刻み込まれてるね。強風こそ上手くなるんだ、とか。強風が楽しくなったっていうか、強風こそ上手くなるっていうのはすごい理解できるようになった、あんまびびんなくなったよね。強風を大事にする、滅多にないコンディションなんだから気合入れて練習しようっていう。
師田：あと最初セッティングこだわんなかったよね。
高山：そうですね。
師田：まだセッティング以前にハンドリングをしっかりやろうっていう。走りに集中するって、大事だよね。
角出：キホンの大切さを知ったんじゃない？
師田：そうそう、「小手先の特効薬はないんだ」っていう、これもまた小松さんの言葉なんだけど。
菅原：他にも色々あるとは思うんですけど、そろそろ時間なのでこの辺で終わりにしましょう。ありがとうございました。
一同：ありがとうございました。

# Gallery

**DAY1　レース終了後**

スピードチェックを行う
スナイプ級３艇

**DAY2**
**＃２　RACE**

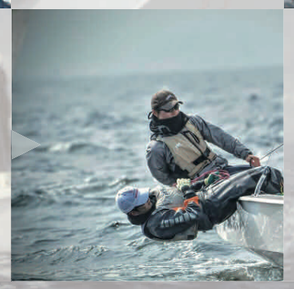
トップ艇 31380
と競る 31418 艇

**DAY3**
**＃８　RACE**

上マークを２位で
回航する 31308 艇

**2016**

菅原・師田ペア



**個人選手権**

全日本個人選は
菅原・浅川ペア

**DAY2**

スピードチェック
を行う 4357 艇と
4579 艇

**4452**

タッキングする
4452 艇

**全日本女子イン**

二組目の一年
土倉・鈴木ペア

**SUPPORT**

マネージャーによる
全日本カウントダウン

**FRESHMAN**

一年生起用！
西坂・斉藤ペア

# 全日本インカレ@福井のご案内

## 大会日程：10 月 31 日～ 11 月 5 日

10 月 31 日　受付

11 月　1 日　受付・大会計測・開会式（16 時より）

11 月　2 日～ 5 日 レース（2 日から 4 日は 1 日あたり 3 レース、5 日は 2 レースが予定されています）

## 場所：福井県若狭和田マリーナ

福井県大飯郡高浜町和田 167-4

JR 小浜線 若狭和田駅より徒歩 20 分

舞鶴若狭自動車道 大飯高浜 IC より車で 10 分

## 現役宿泊地：民宿「登喜丘荘」（ハーバーより車で 10 分）

福井県大飯郡高浜町薗部 51-4

JR 小浜線 高浜駅より徒歩 15 分

舞鶴若狭自動車道 大飯高浜 IC より車で 10 分

現役は 10 月 28 日から 11 月 5 日まで民宿登喜丘荘にて宿泊いたします。

応援にいらした際は是非お立ち寄りください。

皆様のご来援をお待ちしております。

両クラス全日本インカレ出場記念パンフレット

平成２９年１０月発行

編集：師田侑一郎・菅原雅史